

病院建設に向けて 広報げろ 2007.8

病院建設に向けて

病院建設基本計画の策定に着手された平成 19 年度、あらためてその必要性和問題点について考えて見ましょう。これからの金山病院のもっとも必要とされる役割は救急患者をはじめとした入院が必要な患者の治療です。肺炎、心臓病や脳卒中、癌、交通事故などによる外傷などは早期に入院治療を行うための一般病棟が必要です。また、長期の医学的処置を必要とする慢性疾患患者のためには療養病棟が必要です。さらにこれからは地域住民の健康維持のため、くわえて病院維持のための収入を確保するためにも健診体制の整備が必要です。

このような中で病院建設の必要性のひとつに防災があります。大震災が予測され金山下呂間の交通の分断も危惧される中、砦となる金山病院の耐震性も危うい状態です。

病棟の療養環境は最も大きな立替理由でしょう。同じ医療費を頂いても周辺の新しい病院と比較して大きな差が見られます。病室が狭くて古い、バリアフリー環境の不備、食堂や入浴設備など療養環境の不備、空調、水道などインフラ設備の老朽化、これらの不備から来る作業効率の低下は限界にきています。

次にこれからもっとも必要となる健診体制の不備です。ドックなどの健診は病院の収入の大きな柱ですが現在一般外来と同じ領域で健診も行っているので数を増やすことができず受診者にもご迷惑をおかけしています。

さらには医師、看護師不足です。医師が働きたい病院を自由に選ぶことができるようになったので金山病院も選ばれる病院でなければなりません。医師奨学金制度も始まりましたがせっかく奨学生を受け入れても医療施設環境が整備されなければ来てくれません。病院を新しくしたからといって選ばれるとは限りませんがこれは絶対必要な条件です。また働きやすい労働環境は看護師さんが意欲を持って仕事を続けていくためにも大変重要です。

病院を建て替えることが市の財政の負担になるのではという意見もあります。救急患者の受け入れ、急性期および慢性期の入院治療など地域を維持していく上での病院の重要性を考えればある程度の負担は覚悟しなければならないと思われませんが、今後診療圏の皆さんがまず金山病院を利用していただければその負担は軽減され、病院は維持できると考えています。

下呂温泉病院との競合については現在までまったく問題なく金山病院からより専門性を求めて紹介できる病院としてますます関係が深まるでしょう。また名鉄病院の撤退が下呂温泉病院の高次機能の維持に悪影響を及ぼさないためにも金山病院の療養病棟の拡張整備は大変差し迫った問題となっています。

いずれにせよ金山病院の建設は地域の救急医療体制を守り、受診者に療養したい病院として選ばれ、医師や看護師に働きたい病院として選ばれ、南飛驒の健康を守るためにも早急に進めていかなければなりません。

下呂市立金山病院 院長 古田智彦